

講義年月日 2005年6月8日(水)

講師 武蔵大学図書館情報研究センター 事務長：丸田 政文氏

テーマ 大学と図書館：復帰5年目の挑戦

大学

1 大学の現状

出生率が1.29まで落ち込み。受験生の減少。

全入時代へ突入。つぶれる大学がでてくる。

2 大学の生き残り

大学の収入の80%は学費なのだから、学生を大切にしなければならない。

大学のアイデンティティを持たなければならない。(武蔵大学の場合は少数精鋭)

受験者を増やすための努力：学科名変更、AO入試・指定校入試の導入、高校訪問(営業)

3 大学組織

(1) 学生：ニート対策。学生団体の活動が停滞気味。クラブ活動・サークル活動が少ない。

大学の企画・立案に学生の代表を加える(立命館大学)

(2) 教員：大学が二極化している(学習・教育主体 ←→ 研究主体)

(3) 職員

1) 管理業務(財務部門・総務部門)：異動を経験した方がよい。

人事 採用 研修 配属

各課ではなく、人事課が一括で採用する 採用担当者の人を見る目が問われる

2) 広報部門

教員・職員・学生による広報誌の共同制作

広報がうまい大学は受験生増加 レベルUP

3) 窓口業務 「窓口は大学の顔である」

・ 教務部門

・ 学生部部門、学生相談室、就職部門 = 学生センター 課外活動、就職活動

・ 図書館

図書館(武蔵大学の場合)

1 図書館のポジション

・ 大学の中心(武蔵大学は敷地の中央に図書館がある)

・ サービス業としての図書館

・ 広報機関としての図書館

2 図書館は「大学営業第1課」 学外者・他課へのアピールが大切。

3 サービス活動

- ・開館日の再考（夏休み土日月3連休を月曜日開館へ変更）
- ・四大学図書館相互利用
- ・高校生への夏季期間図書館の開放
- ・練馬区民への図書館の開放
- ・学外利用者の拡大

4 職員体制

- ・3課の廃止（3課から1事務室にすることで課長2名を削減）
- ・専任職員 人事異動（学内の場合は人事課、館内の場合は事務長。研修しても異動の可能性はある）
- ・業務委託、派遣業務（コアになる専任職員が確保されているならば無資格の専任職員よりも有資格の委託職員の方が即戦力になる。財政的にも大きい）

5 課題

- ・図書館研究情報センターあり方検討WG報告の実施
- ・レファレンスの充実
- ・集書方針
- ・学内学術情報の発信
- ・映像メディアセンターとの関係
- ・江古田3大学・練馬区立図書館コンソーシアム

6 学園将来構想計画委員会

2005年10月答申予定